

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
ケアリングコミュニケーション		BNNSS5E10	30110	3前	1(30)	必修
担当教員	井上 深幸	実務歴	有	看護師として病院/診療所に勤務		
概要	ケアリングの理論及びコミュニケーション理論について学び、看護をケアリングコミュニケーションとして捉えなおすことによって、看護の対象を全人的に理解できる豊かな感性を培う。次に、臨地実習での自己の看護の振り返りをもとに、看護におけるケアリングコミュニケーションを開発し、役割演技法による発表を通していつくしみ、深く相互的なコミュニケーション力を修得する。					
学修目標	1) 看護の対象の全人的理解のためにケアリングコミュニケーションを構築できる。 2) 臨地実習の経験を振り返り、患者とのコミュニケーション場面の相互作用の分析ができる。 3) 後期の臨地実習に向けて、自己のケアリングコミュニケーションの方略を説明できる。 4) 看護の場面を再構成し、ケアリングを実践するための相互的なコミュニケーションができる。					
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		
1	何故、看護にケアリングが必要なのか？			文献を通してケアリングについて考える		
2	何故、コミュニケーション理論に基づくコミュニケーションでは不十分なのか？			コミュニケーションの知識を整理する		
3	ケアリングの理論①－ Watson Benner			文献を通してケアリングについて考える		
4	ケアリングの理論②－ Leininger Mayeroff					
5	ケアリングの理論③－ Montgomery					
6	ケアリングの理論④－ Wiedenbach					
7	看護におけるケアリングコミュニケーション			ケアリングの理論に基づきケアリングコミュニケーションについて考える		
8	ケアリングコミュニケーションの再構成と具体的方略					
9	ケアリングコミュニケーションの再構成と具体的方略					
10	ケアリングコミュニケーションの再構成と具体的方略					
11	ケアリングコミュニケーションの再構成と具体的方略					
12	ケアリングコミュニケーションの構築			自己のケアリングコミュニケーションについて考える		
13	ケアリングコミュニケーションの構築					
14	ケアリングコミュニケーションの構築					
15	まとめ～看護におけるケアリングコミュニケーション					
使用テキスト	キャロル・レッパネン・モンゴメリー 訳)神郡 博他(1995)『ケアリングの理論と実践 コミュニケーションによる癒し』 医学書院					
参考図書	①稲岡文昭他訳(2014)『ワトソン看護論 ヒューマンケアリングの科学第2版』医学書院。 ②井上智子監訳(2005)『ベナー 看護ケアの臨床知』医学書院。 ③石井邦子訳(1995)『レイニンガー看護論－文化ケアの多様性と普遍性』医学書院。 ④池田明子訳(2015)『コミュニケーション 効果的な看護を展開する鍵』日本看護協会出版会。 ⑤Wiedenbach					
成績評価基準	授業参画50% 提出物50%					